

オーディオ実験室収載

EMT981 導入顛末記(2) —EMT981 による CD のリマスタリング—

1. はじめに

これまでの CD のリマスタリングは EMT982 を用いて実施してきましたが、今回、EMT981 による CD のリマスタリングを実施してみました。なお、複数機に同一周波数のクロックを供給する場合は、発注していた CCD-6 が届きましたのでこれを経由させました。

2. リマスタリングのルート

CD 音源を使用し、下記の手順でデジタル入力の PCM 録音、アナログ入力の PCM 録音およびアナログ入力の DSD 録音を行い、DSD 録音は DSF 5.6MHz のフォーマットで実施しました。

2-1) デジタル入力の PCM 録音

【経路】 EMT981→CCV-5→MR2000sBK S/PDIF 入力

【クロック】 GPS-777→EMT982 44.1KHz with DCG-5

GPS-777→CCD-6→CCV-5 96KHz with クロックリベラメンテ
MR2000sBK S/PDIF クロック

【後処理】 96KHz, 24bit WAV を r8brain で 44.1KHz, 16bit WAV に
ダウンコンバート後、CDR 作成

2-2) アナログ入力の DSD 録音

【経路】 EMT981→CCV-5→DAC-1→MR2000sBK RCA アナログ入力

【クロック】 GPS-777→CCD-6→EMT981 44.1KHz with DCG-5

GPS-777→CCD-6→MR2000sBK 44.1KHz
with クロックリベラメンテ

GMS-777→CCV-5 96KHz with クロックリベラメンテ

【後処理】 5.6MHz DSF を AudioGate で 44.1KHz, 16bit WAV に変換後、
CDR 作成

3. 試聴結果

試聴はアナログ入力の DSD 録音の時と同じく 【EMT981→CCV-5→DAC-1→MR2000sBK RCA アナログ入力】 のルートで DSD 録音の待機状態でモニターする条件です。

まず、同じ曲のデジタル入力の PCM 録音と DSD 録音を比べると、これまでの印

象と同様に PCM 録音のくつきり、はっきり系に対し、DSF 録音では自然で滑らかで柔らかい音の印象は変わらず、録音条件の違いが CDR にまで記録されていることが分かります。しかし、EMT982 での再生を利用した場合の録音と違い、全体にクリティが上がっており、特に PCM 録音での説得力があって、これはこれで魅力的と言えます。このことは単に録音だけでなく再生においても EMT981 で再生していることの効果もあります。

さらに、いろいろな曲を DSF 5.6MHz 録音を行い、CDR に焼いてみましたが、元の CD が此処まで印象が変わるのがと思わせるものもあって、古いライブ録音の CD でもステージの広さやホールの広さが分かり、ホールの後ろまで音が届き反射して戻ってくる様子まで分かったのには驚きました。

4. まとめ

EMT981 での再生を利用した録音では PCM 録音、DSF 録音とも元の CD よりクリティが上がり、それぞれの個性が CDR にまで記録されることが分かりました。また、CCD-6 は複数の機器に同一周波数のクロックを供給する場合、分岐コネクターのような音質の劣化をともなわずに実施できるメリットがあります。

以上